

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載
 【部門区分】第6部門第2区分
 【発行日】平成20年2月7日(2008.2.7)

【公開番号】特開2002-258382(P2002-258382A)

【公開日】平成14年9月11日(2002.9.11)

【出願番号】特願2001-60500(P2001-60500)

【国際特許分類】

G 0 3 B 17/17 (2006.01)

G 0 3 B 11/04 (2006.01)

G 0 3 B 17/00 (2006.01)

H 0 4 N 5/232 (2006.01)

G 0 3 B 3/10 (2006.01)

G 0 3 B 13/34 (2006.01)

H 0 4 N 101/00 (2006.01)

【 F I 】

G 0 3 B 17/17

G 0 3 B 11/04 C

G 0 3 B 11/04 B

G 0 3 B 17/00 Q

H 0 4 N 5/232 A

G 0 3 B 3/10

H 0 4 N 101:00

【手続補正書】

【提出日】平成19年12月17日(2007.12.17)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

複数のレンズからなり、被写体からの光束が入射する第1のレンズ群と、

被写体側から入射し上記第1のレンズ群を通過する透過光を当該第1のレンズ群の光軸に対して略直角方向に反射する反射手段と、

上記第1のレンズ群のうちの最も上記反射手段寄りの位置に配置されるレンズの上記反射手段に対向する面に設けられ、被写体からの光束により形成される被写体像を結像面上に結像させるのに寄与する光線以外の不要光線を遮断するための第1の絞り手段と、

複数のレンズからなり、上記反射手段によって反射された光束が入射する第2のレンズ群と、

上記第1のレンズ群及び上記第2のレンズ群の間に位置し、上記第1のレンズ群から上記反射手段へと向かう被写体像を形成するための光束及び上記反射手段から上記第2のレンズ群へと向かう被写体像を形成するための光束の双方の最外周側の光線が交わる位置よりも外側を通過する不要光線を遮断するための第2の絞り手段と、

を備えたことを特徴とするカメラ。

【請求項2】

上記反射手段によって反射した光束により形成される被写体像が結像する位置に配置され、枠部材と一体的に配設される被写体像取得手段と、

上記反射手段と上記被写体像取得手段との間隔を変位させることで被写体像の焦点調節

動作を行なう焦点調節機構と、

外装部材に形成され、上記第1のレンズ群に入射する被写体からの光束を透過させ得る開口寸法を有すると共に、焦点調節動作に応じて変位する上記反射手段と上記被写体像取得手段との間の距離が最短距離に設定された場合と、最長距離に設定された場合とのいずれの場合にも、上記第1のレンズ群に入射する被写体からの光束を透過させ得るように、その長辺方向の寸法が設定されている被写体光束入射窓と、

を具備したことを特徴とする請求項1記載のカメラ。

【請求項3】

上記被写体光束入射窓は、上記第1のレンズ群の焦点調節動作に伴う移動方向に対して略直交する方向の開口寸法が、被写体からの入射光束の径寸法と略同等の寸法となるように形成されていることを特徴とする請求項2に記載のカメラ。【図面の簡単な説明】

【請求項4】

上記被写体光束入射窓は、上記第1のレンズ群の焦点調節動作に伴う移動方向に沿う方向に長辺を有する細長形状からなることを特徴とする請求項2又は請求項3に記載のカメラ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0023

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0023】

【課題を解決するための手段】

上記目的を達成するために、第1の発明によるカメラは、複数のレンズからなり、被写体からの光束が入射する第1のレンズ群と、被写体側から入射し上記第1のレンズ群を通過する透過光を当該第1のレンズ群の光軸に対して略直角方向に反射する反射手段と、上記第1のレンズ群のうち最も上記反射手段寄りの位置に配置されるレンズの上記反射手段に対向する面に設けられ、被写体からの光束により形成される被写体像を結像面上に結像させるのに寄与する光線以外の不要光線を遮断するための第1の絞り手段と、複数のレンズからなり、上記反射手段によって反射された光束が入射する第2のレンズ群と、上記第1のレンズ群及び上記第2のレンズ群の間に位置し、上記第1のレンズ群から上記反射手段へと向かう被写体像を形成するための光束及び上記反射手段から上記第2のレンズ群へと向かう被写体像を形成するための光束の双方の最外周側の光線が交わる位置よりも外側を通過する不要光線を遮断するための第2の絞り手段と、を備えたことを特徴とする。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0024

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0024】

第2の発明は、上記第1の発明によるカメラにおいて、上記反射手段によって反射した光束により形成される被写体像が結像する位置に配置され、枠部材と一体的に配設される被写体像取得手段と、上記反射手段と上記被写体像取得手段との間隔を変位させることで被写体像の焦点調節動作を行なう焦点調節機構と、外装部材に形成され、上記第1のレンズ群に入射する被写体からの光束を透過させ得る開口寸法を有すると共に、焦点調節動作に応じて変位する上記反射手段と上記被写体像取得手段との間の距離が最短距離に設定された場合と最長距離に設定された場合とのいずれの場合にも、上記第1のレンズ群に入射する被写体からの光束を透過させ得るように、その長辺方向の寸法が設定されている被写体光束入射窓と、を具備したことを特徴とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 5

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 5 】

第 3 の発明は、上記第 2 の発明によるカメラにおいて、上記被写体光束入射窓は、上記第 1 のレンズ群の焦点調節動作に伴う移動方向に対して略直交する方向の開口寸法が、被写体からの入射光束の径寸法と略同等の寸法となるように形成されていることを特徴とする。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 6

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 6 】

第 4 の発明は、上記第 1 の発明又は上記第 2 の発明によるカメラにおいて、上記被写体光束入射窓は、上記第 1 のレンズ群の焦点調節動作に伴う移動方向に沿う方向に長辺を有する細長形状からなることを特徴とする。